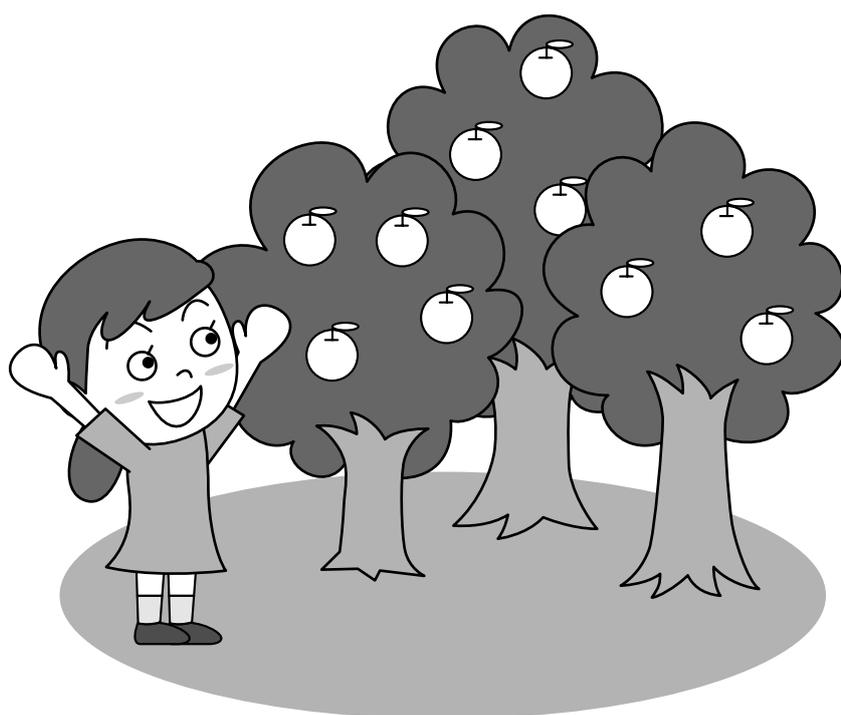


第3章

アジェンダ2 1すいたの進め方

～画に描いた餅にしないために～



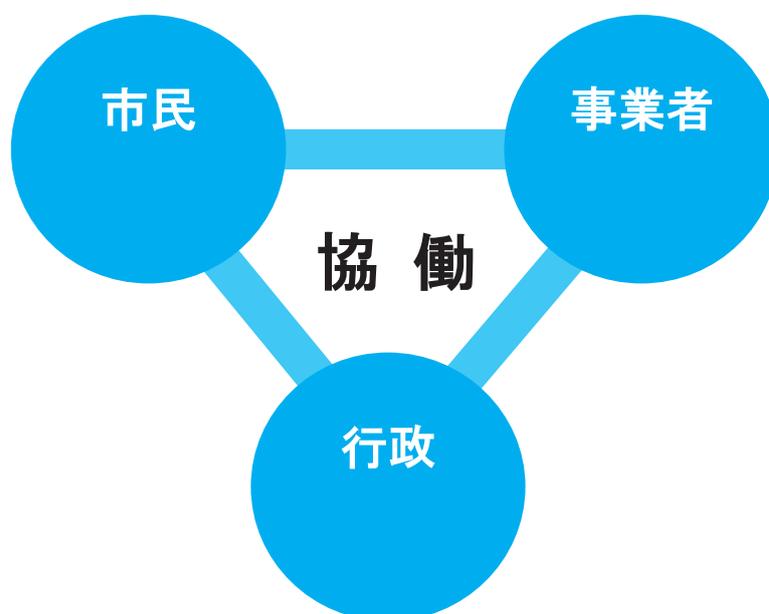
第3章 アジェンダ21 1すいたの進め方 ～画に描いた餅にしないために～

第1節 計画推進方針

計画は、実行されなければ「画に描いた餅」に終わってしまいます。本計画に示された様々な行動プロジェクトを実行に移すには、それを着実に進めるための体制の整備が必要です。

持続可能な地域社会を実現するには、市民・事業者・行政がそれぞれ主体的に取り組むことに加え、三者協働により、お互いの長を生かしあって、相乗効果をもたらすように取り組むことが重要です。

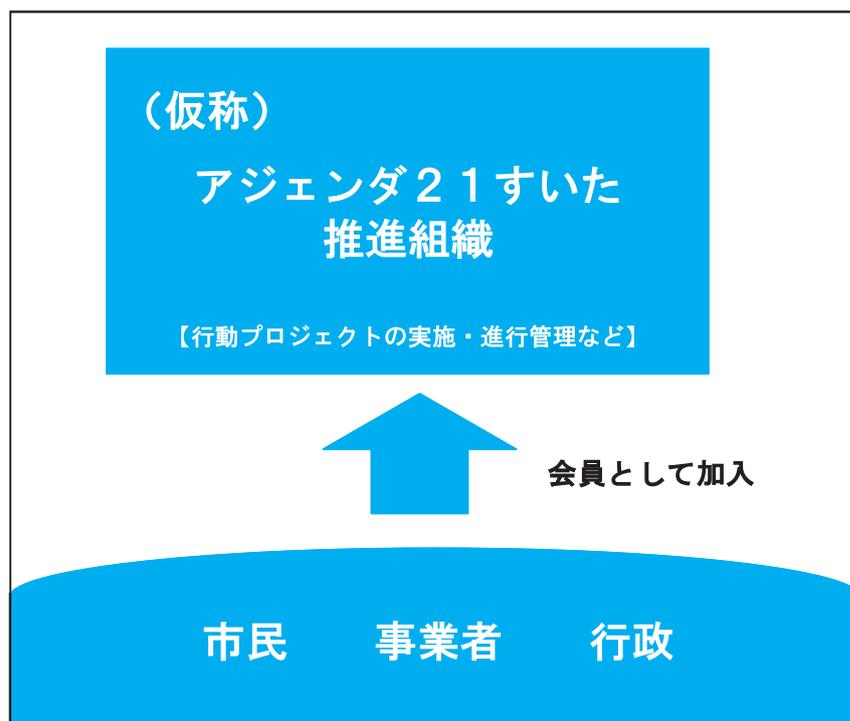
本計画は、三者協働により策定しましたが、このようなことから引き続き、三者協働のもとに計画を推進していくことを基本方針とします。



第2節 三者協働による推進組織の設置

行動プロジェクトの実行など、市民・事業者・行政が三者協働で具体的に計画を進めていくための基盤となる組織「(仮称) アジェンダ21すいた推進組織」を設置します。

この組織は、アジェンダ21すいたの趣旨に賛同し、行動しようとする人ならば誰でも会員になれるものとします。運営は、市民・事業者・行政が協働で行い、持続可能な社会づくりを実践します。また、行動プロジェクト推進のために必要と思われる実行組織を自ら設置し、展開する機能を持ち、ローカルアジェンダ21の原則である三者協働を基本としながら、より自立性を高めた運営を目指します。

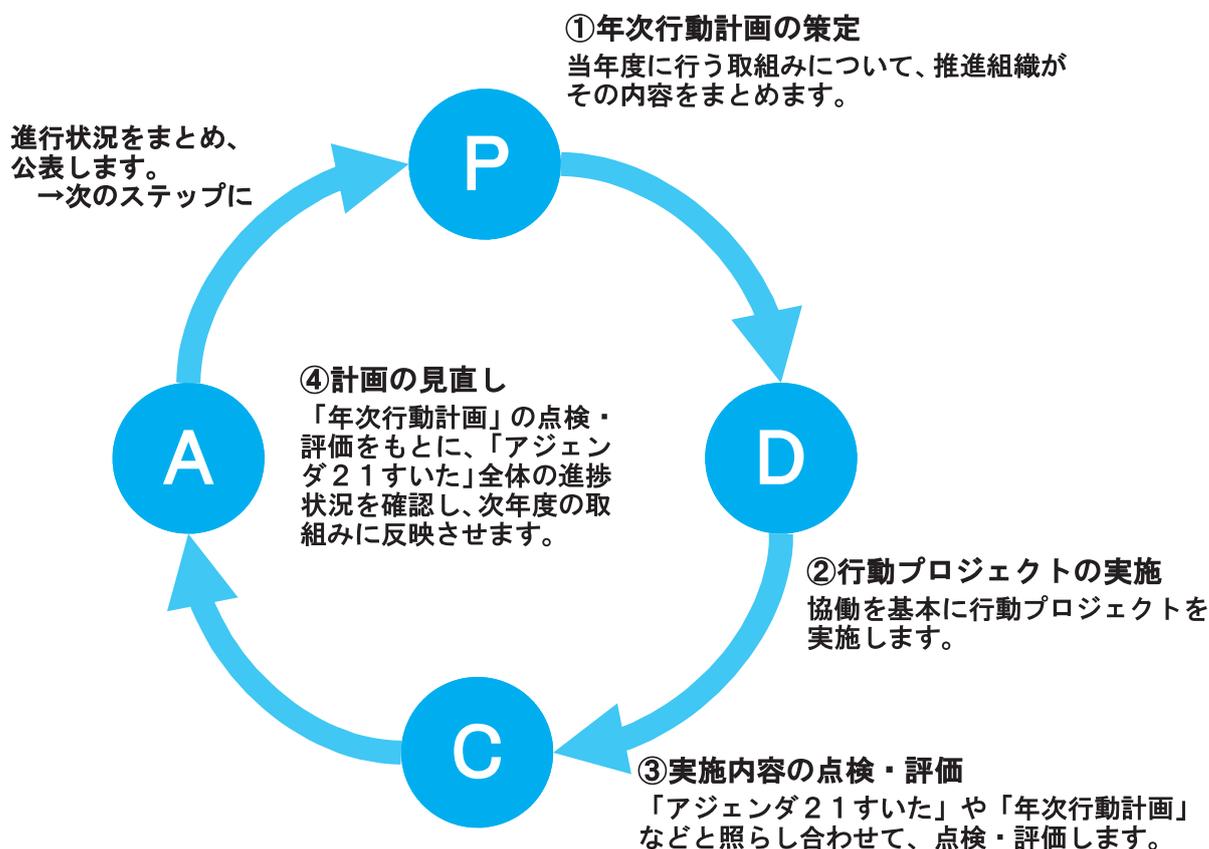


第3節 進行管理

計画の進行管理は、PDCAサイクルを回していくことを基本とします。

PDCAサイクルとは、「Plan（計画）」、「Do（実行）」、「Check（点検・評価）」、「Action（見直し）」のことで、P⇒D⇒C⇒A⇒・・・と繰り返して、計画の進捗状況を把握し、課題を解決しながら改善と向上を図る進行管理手法のことです。

計画の進行管理は「(仮称)アジェンダ21すいた推進組織」が行い、計画の全体的な進捗状況、各行動プロジェクトの実施状況などを把握し、それらの評価、見直し結果を広く市民に対して、明らかにするものとします。



年次行動計画

推進組織が、「アジェンダ21すいた」に基づいて、市民・事業者・行政が行う年度ごとの取組みについて、まとめ、公表します。